科目名	看護学概論	担当教員	渡邉美佐子		
開講年次	1年 前期	単位数	1	時間数	30
テキスト	看護学概論 医学書院				
参考文献 関連科目	ナイチンゲール看護論入門:金井一薫著 中範囲理論 教育学 機能看護論 地域・在宅看護論 関係法規 等				
学習のねらい	1. 看護の定義・対象・方法、社会が求める看護について多角的に思考する必要を学ぶ。また、看護職者としての展望を持ち、学習する目的を明確にできることが狙いである。				
目標	1. 概論を学ぶ意義を理解し、看護職者としての展望を持ち、学習する目的を明確にできる。 2. 社会が求める看護を提供する必要性を理解し、看護専門職者として看護の質保証が求められていることを理解する。 3. 看護実践を検証する上で、手立てとなる看護理論を学ぶ意義を理解する。また、本学におけるナイチンゲール看護論を基盤とした持てる力を支援する看護を学ぶ意義を理解する。 4. 看護技術は、看護の専門知識に基づいて、受け手の安全・安楽・自立を目指した目的意識的な直接行為であり、実施者の看護観と技術のレベルが反映される看護実践である。その看護実践については、個人として責任を持つと同時に多職種との連携協働により、コミュニケーション能力(ICT＊活用含む)が求められていることを理解する。 ＊ ICT:information and communication technology				

回数	学習項目	学習内容	方法
1 2 3	1. 看護の歴史 看護の定義 看護の対象 看護の方法	1) 看護について、様々に定義されているが、対象は人間であり、対象の理解と人間の健康を支援することを理解する。 2) 時代とともに社会が求める看護の変化を理解し、保健医療福祉のチームとそのメンバーとして多職種連携・協働とコミュニケーションが求められていることを理解する。 3) そのコミュニケーションツールとしてICTの活用が推進されていることを理解する。 4) 健康の定義は、時代とともに変遷していることを理解する。 5) 方法としての看護技術は、看護の専門知識に基づいて受け手の安全・安楽・自立を目指した目的意識的な直接行為である。実施者の看護観と技術のレベルが反映されるものである。その看護技術の意味を理解する。	講義 演習
4 5	2. もてる力を支援する看護と学習支援	1) 対象の健康教育を受ける権利があることを理解し、看護における学習支援は対象のもてる力を支援する看護について理解する。	講義・演習 (事例学習)
6	3. 地域・生活・家族	1) 看護の提供の場は、病院施設のみでなく人間の生活の場にある。多様な生活の場である地域での看護求められていることを理解する。	演習

		2) 生活者である対象とその社会の最小単位となる家族の多様性について学ぶ。	講義
7 ～ 10	4. 看護実践と質保証と看護理論	1) 看護理論を学ぶ意義。 看護実践における事象・現象を帰納的論証したものが看護理論である。現象をどのように検証・意味付け・根拠づけられているかを理解し、看護の質保証の根拠でもあることを理解する。 ① ナイチンゲール看護論 ② ロイの適応論 ③ ヘンダーソンのニード論 ④ セルフケア理論 ⑤ 人間関係論 ⑥ 危機理論 ⑦ マズロー欲求階段説 ⑧ ストレスとコーピング ⑨ タクティール ⑩ ムーアの分類 等 その活用については、文献の論証においてどのように理論が活用されているかを学習する。	講義・演習
11～ 14	5. 看護の法的根拠	1) 看護と関連する法律を概観し、看護職の法的根拠・相対的欠格事由等について理解する。	
	6. 学習の展望	2) 看護専門職者の基礎看護教育課程を学ぶ意義を学び、目指す看護(師像)について、自身の学習姿勢を考える。また、その目指す看護(師像)のために今どのような学習姿勢で臨むかを表明する。	
15	7. 学科評価・まとめ	単位認定試験	
評価方法		学科試験 出席状況 授業態度	
評価区分		学科試験 100%	

授業科目名	機能看護論Ⅱ （清潔・衣生活援助技術）	担当教員 北山留美子			
開講年次	1年次後期	単位数	1	時間数	30
テキスト	基礎看護学3　基礎看護技術Ⅱ：医学書院				
参考文献・ 関連科目	看護が見える①基礎看護技術：MEDIC MEDIA、看護援助動画 看護形態機能学：日本看護協会出版 生物学、解剖生理学、歯・口腔：医学書院				
学習のねらい	・人が生命をはぐくみ、維持するためには生活行動が不可欠であり、「衣・食・住」の営みが基本となる。からだの清潔を保ち、身だしなみを整えることは人間の基本的ニーズであり、それらの維持が困難になった場合、対象に適した方法や組み合わせを工夫して援助を行う技術を習得する。また、対象の清潔に対する考え方や習慣は多様であるため、個別性をふまえ安全で安楽な援助技術、対象に配慮した技術を習得する。 ・外界の刺激から身を守る衣服の役割と同様に、皮膚・粘膜自体の身体内部を守る働きを理解し、対象の日常生活に近い方法で清潔行為をし、その人らしい装いができるよう援助する。				
目標	1. 皮膚・粘膜の構造を理解し、清潔援助の効果と全身への影響を理解する。 2. 対象の生活を整えるための身体の清潔および衣生活の援助技術を習得する 3. 対象の個別性を踏まえ、安全で安楽な清潔援助を計画・実施・評価できる。 4. 対象の羞恥心に配慮し、反応を観察しながら援助が実施できる 5. 演習を通し、対象の気持ちを推察できる ①対象が気持ち良いと言える援助の実施				

回数	学習項目	学習内容	方法
1 2 3	1. 清潔援助の基礎知識	1) 清潔の意義 (1) 心地よいとは何かを考える ①清潔援助の身体への効果 ②患者の状態をアセスメントし援助方法を選択 ③湯の温度 ④所要時間 ⑤体位	講義演習 グループワーク
		2) 原理原則・根拠に基づいた、対象が「心地よい」と感じる援助方法を考える (1) 入浴・シャワー浴 (2) 洗髪・整容 (3) 手浴・足浴・爪のケア (4) 全身清拭・衣服 (5) 陰部洗浄・おむつ交換 （おむつのあて方）	講義演習 グループワーク
4 5		3) グループワークでの学びを発表、共有し実践につなげる	援助方法を発表 発表方法は自由 実践につながるように

6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	2. 清潔援助の実際 事例患者への看護実践 技術評価 学科評価	1)グループワークでの学びを元に援助の実際を学ぶ (1)洗髪 ・洗髪車　・ケリーパッドを使用 (2)手浴・足浴・爪切り (3)全身清拭・寝衣交換 学生同士で患者役・看護師役をする (4)陰部洗浄・おむつ交換 陰部モデルを使用し、男性・女性両方を実施する 学生同士で患者役・看護師役をする 単位認定試験 単位認定試験	講義演習 グループワーク 課題:援助計画を各自作成

評価方法	学科試験　技術試験　出席状況　授業態度
評価区分	学科試験　60%　技術試験　40%

科目名	機能看護論 Ⅲ （日常生活援助：食事・排泄）	担当教員 浅井文子　元吉広恵			
開講年次	1年次前期	単位数	1	時間数	15
テキスト	基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ ：医学書院				
参考図書	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 ：医学書院				
学習のねらい	・食べることは人間の基本的ニーズであり、人が生命を維持するうえで必要不可欠な　行為である。なんらかな原因により食事摂取困難になったとき、人は生命の危機に直面する。人間の日常生活に必要な食事・栄養の意義を理解し、その援助技術を学ぶ。 ・ふだん意識することなく行っている排泄行為は、日常的な行為であり人間がもつ自然の欲求のひとつである。排泄という行為は最も人に見られたくない極めて個人的な行為でもある。なんらかな原因によって排泄を他人に委ねなければならない状況が生じたとき、「情けない」「自分は生きている価値のない人間になってしまった」などの思いを描くことが多い。また、排泄の援助は対象が最も頼みにくい援助のひとつであるといわれている。排泄の援助を受ける対象に対して、羞恥心に配慮した排泄の援助技術を学ぶ。				
学習目標	1. 栄養や食事を支える消化・吸収のメカニズムの理解や、環境、行為、味わいについて理解する。 2. 様々な健康状態にある対象に適した食事内容や方法を理解し、対象に合わせた必要な援助を理解する。 3. 安全に摂取するための食事、満足感が得られるような食事の援助を習得する。 4. 人間の排泄を理解し、対象が健康的な生活を送るために必要な援助方法を習得する。 5. 排泄に影響を及ぼす要因について理解し、アセスメントできる。 6. 排泄行動に影響を及ぼす要因を理解し、対象に応じた排泄援助を習得する。				

回数	学習項目	学習内容	方法
1 2 3 4	1.自然排尿および自然排便の基礎知識	1)排泄の意義・メカニズム 2)排泄に関するアセスメント 3)自然排尿・自然排便を阻害する要因 4)自然排尿・自然排便を促す方法	講義演習
	2.排泄の援助	1)便器・尿器を使用したベッド上での排泄援助　および根拠・留意点 2)便器・尿器、ポータブルトイレを用いた排泄援助 3)頻尿と尿失禁 4)排尿困難と尿閉 5)科学的根拠に基づいた安全安楽な排泄援助 (1)床上排泄 (2)ポータブルトイレ (3)グリセリン浣腸 (4)導尿	講義演習 講義演習 G ワーク技術 演習

	学習項目	学習内容	方法
5 6 7	3. 食事の基礎知識	1) 食事・栄養の意義 2) 摂食・嚥下のメカニズム 3) 食事と栄養に関するアセスメント (1) 栄養状態 (2) 食事摂取内容 (3) 水分摂取と排泄	講義演習
	4. 食事の援助	1) 食事を妨げる要因 2) 食事形態の実際 3) 科学的根拠に基づいた安全安楽な栄養と食事への援助 (1) 経口摂取できる対象への食事援助 (2) 視力障害のある対象への食事援助 (3) 嚥下障害のある対象への食事援助 (4) 経口摂取できない対象への食事援助 (経管栄養・固定法と確認方法) (1) 口腔ケア（トロミをつけて体験）	講義演習 講義演習 G ワーク技術演習
8	学科評価 まとめ	単位認定試験	
評価方法		出席状況 技術試験 授業態度 学科試験	
評価区分		学科試験 60%　　技術試験　40%	

授業科目名	機能看護学Ⅴ （診療の補助技術①　与薬技術）	担当教員 元 吉 広 恵			
開講年次	1年前期	単位数	1	時間数	20
テキスト	基礎看護学　　医学書院				
参考文献					
関連科目	薬理学 薬物療法と看護				
目標	1．薬物の基礎知識を想起し、薬物療法と看護の関連を理解できる。 2．与薬のための法的根拠を理解できる。 3．発達段階に応じた与薬法についての基本的知識、技術、態度を習得できる。 4．多様な場で自己管理ができる支援方法を理解できる。				

回数	学習項目	学習内容	方法
1 2	1. 医薬品の法的規制 （保健師助産師看護師法　37条　） 2. 薬物の投与経路 3. 与薬のために援助技術	紙上事例を用いた学習 1）与薬の指示から実施まで （2人以上で確認） 2）正しい薬物投与　与薬法 （計算方法） 3）与薬における安全管理 4）感染予防 （医療廃棄物の取り扱い　保管場所） 5）薬物投与における安全管理 6）事故発生時の対応;医療安全の確保に向けた視点 7）リスクマネジメント:医療安全の確保に向けた取り組み	講義演習
3 4 5 6 7 8 9 10	2. 与薬方法 発達段階に応じた与薬方法	紙上事例を用いた学習 1）経口与薬方法：内服、口腔内投与 2）経皮・外用的与薬方法：塗布、塗擦貼用法 3）点鼻、点眼　点耳 4）坐薬挿入法:直腸内 5）注射法:皮内注射法　皮下注射法　筋肉内注射　点滴静脈内注射 6）高カロリー輸液法と中心静脈栄養の管理 7）輸血法と輸血の管理 8）輸液ポンプ　シリンジポンプの操作	講義演習

評価方法	授業態度　出席状況　学科試験
評価区分	学科試験　100%

授業科目名	機能看護論Ⅵ （診療の補助技術②）	担当教員 近藤宏美　北山留美子			
開講年次	１年前期	単位数	1	時間数	15
テキスト	基礎看護学②基礎看護技術Ⅱ：医学書院　　臨床看護学総論：医学書院				
参考文献・ 関連科目	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術：医学書院 看護技術がみえる①・②：MEDIC　MEDIA				
学習のねらい	・看護師は医師の行う検査や治療行為の介助を行うとともに、その指示や了解のもとに検査や治療に関わるため検査や治療は安全に行われ、正確な結果を得る必要がある。そのためには安全・安楽・正確に実施できる技術を学ぶ。 ・疾病の治療・予防のひとつである与薬・注射は、医師の指示のもとに行われるため、看護師は医療専門職としての職業倫理の観点から、対象者の安全・安楽を確保するための確かな知識・技術・倫理的な態度を兼ね備える必要がある。対象を理解し、看護実践に必要な基本技術を学ぶ。				
学習目標	1. 診療に伴う基本的援助技術と診療を受ける対象を理解し、看護の方法が理解できる。 2. 検体検査・生体検査の意義と目的、これらおける看護の実際が理解できる。 3. 医療現場にあふれている多くの医療機器を安全に使用できるよう、機器の基本的な仕組み、使用方法や管理について理解できる。 4. 治療・処置の意義と看護者の役割を理解する。 5. 対象者の身体侵襲に配慮した援助を考え、検査・治療における看護技術を実施できる。				

回数	学習項目	学習内容	方法
1	1. 診療と看護 （診察・診察時の看護）	1) 診療における看護師の役割と倫理 2) 診察時の看護 3) 検体検査、生体検査、生体情報モニタリング 4) 各検査の目的と看護 (1) 尿検査　(2) 便検査　(3) 喀痰検査 (4) X線検査　(5) CT・MRI 検査　(6) 内視鏡検査 (7) 超音波検査　(8) 肺機能検査 (9) 核医学検査 5) 各検査のメカニズムと結果の示す意味	講義 技術演習
2 3	2. 血液検査	1) 血液検査の種類とその目的 (1) 静脈血採血 (2) 動脈血採血 (3) 簡易血糖測定 2) 静脈血採血と看護 (1) 物品の準備と採血の実際 (2) 血液検体の取り扱い方 ①真空管採血による採取方法と手順 ②注射器採血による採取方法と手順 技術演習：血糖測定・静脈血採血	講義 技術演習
4～6	3. 呼吸・循環を整える	1) 酸素吸入法の基礎知識 (1) 酸素吸入療法の目的と種類	講義 技術演習

回数	学習項目	学習内容	方法
		(2) 使用器具の種類と特徴・援助方法 ①中央配管　②酸素ボンベ　③酸素マスク ④鼻カニューレ 2) 酸素吸入療法の援助の実際 (1) 中央配管方式による方法 (2) 酸素ボンベの取り扱い 3) 排痰ケア (1) 体位ドレナージ　(2) 徒手的呼吸介助 (3) 咳嗽　(4) ハフィング 4) 吸入（薬液噴霧法） (1) ネブライザーの目的と適応 (2) ネブライザー治療時の看護 5) 一時的吸引の援助の実際 (1) 吸引の目的と適応 ①口腔吸引　②鼻腔吸引　③気管内吸引	講義 技術演習
7	4.　包帯法	1) 包帯の目的 2) 包帯使用時の原則と方法 環行帯　螺施帯　麦穂帯　三角巾	講義 技術演習
8	5.　学科評価	単位認定試験	

評価方法	学科試験　出席状況　授業態度
評価区分	学科試験　100%

授業科目名	健康支援	担当教員	梅里妙子		
開講年次	1年次前期	単位数	1単位	時間数	30
テキスト	看護学概論、成人看護学概論（医学書院）				
参考文献	地域・在宅看護論の基礎、厚労省HP（白書他）、総務省HP（統計）　他				
関連科目	看護関係法令（医学書院）				
学習のねらい	地域で暮らす対象や家族を取り巻く環境を理解し、対象の健康保持・増進、疾病予防に向けた看護師の役割が理解できることがねらいである。				
目標	1．地域で暮らす対象や家族を取り巻く環境を理解する 2．対象の健康保持・増進、疾病予防に向けた看護師の役割が理解できる 3．対象を生活者としてとらえ、健康状態・対象の特性を把握し今後の状態予測をし、セルフマネジメントができる支援方法を習得する 4．対象や家族が望む生き方や暮らし方を尊重し社会資源の活用が理解できる 5．他職種連携・地域連携の必要性が理解できる				

回数	学習項目	学習内容	方法
1	1．健康の基礎知識	1）健康の定義　WHO　ウエルネス ヘルスプロモーションと健康政策	講義
2 3	2．健康支援の基礎理論	1）健康行動に必要な理論 ①健康行動理論 ②健康信念モデル（ヘルスビリーフモデル） ③自己効力理論　④セルフケア理論 ⑤危機理論　⑥ストレスと対処 ⑦生きる力と強さに着目したヘルスプロモーション レジリエンス、リカバリー ストレングス　エンパワーメント 2）ヘルスリテラシー 3）ヘルスコミュニケーション	講義演習
4 5	3．ライフサイクルにおける健康教育	1）ライフサイクルにおける発達課題と健康課題 小児、成人、高齢者、女性、精神 2）健康づくりの取り組み 食事　運動　活動と休息 排泄　清潔　歯・口腔	講義演習
6 7 8 9 10 11 12	4．対象の特徴を理解した健康課題と管理	1）学生本人と家族の健康課題と管理 2）各発達段階に応じた事例学習 （1）健康増進による看護師の役割 ①健康管理能力の把握の視点 ②対象の持てる力を引き出す支援 ③セルフマネジメント ④多職種連携・地域連携 成人　生活習慣病 独居高齢者の在宅生活継続支援 周産期における支援 小児　アレルギー性疾患 抑うつ障害 3）学童期の健康課題と管理（学校保健） 4）働く人の健康課題と管理（産業保健）	演習（発表含） 講義演習 地域に出向き学

13 14	5. 地域づくりと健康	1）行政機関　産業保健分野 地域診断　母子保健活動	習する。 （または、 課題学習）
15	6．学科評価・まとめ	単位認定試験	

評価方法	授業の出席時間および授業態度、授業中に提示した課題　筆記試験
評価区分	学科試験 100%

授業科目名	看護方法論Ⅱ	担当教員	酒部葉子		
開講年次	1年次前期	単位数	1	時間数	15
テキスト	基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ：医学書院				
参考図書・関連科目	ゴードン博士の看護診断アセスメント指針：照林社 NANDA-I 看護診断:医学書院 看護がみえる④看護過程の展開：メディックメディカ				
学習のねらい	ゴードンのアセスメント枠組みを使用し、看護過程の展開の基礎を学ぶ。紙上事例を使って、情報から根拠のある看護診断を導き、問題解決をはかるための目標を考える。そこから、具体的援助を考えられるようにする。また、促進準備状態の診断についてももてる力を支援できる看護として積極的に考えられるようにする。				
目標	1．看護過程を構成する要素とそのプロセスを理解する。 2．看護方法論として看護過程を用いることの意義を理解する。 3．紙上事例をもとに、問題解決過程やクリティカルシンキング、リフレクション倫理的判断といった看護過程の基盤となる考え方について理解する。 4．看護過程の各段階についてその基本的な考え方と実際を理解する。 5．クリティカルパスについて基本的な考え方を理解する。				

回数	学習項目	学習内容	方法
1	1．看護実践における看護過程とは	1）看護過程の意義について理解する 2）看護過程の構成要素を理解する 3）クリティカルシンキングについて理解する	講義
2	2．看護過程における看護診断と看護成果および看護介入について	1）「NANDA-I 看護診断の定義と分類」の見方と活用方法について	講義
3	3．アセスメントの枠組みとしてゴードンの機能的健康パターンを用いる意味	1）ゴードンの機能的健康パターンについての１１の枠組みの意味 2）情報の整理の仕方 3）アセスメントの考え方	講義
4	4．全体像の捉え方と関連図作成の意味	1）関連図の中に対象者の背景、発達段階、病態、治療、看護上の問題をあげ全体像を可視化する方法	講義
	5．看護診断・看護計画	1）看護の優先順位の考え方 2）看護計画の立案 3）対象者の強みを活かした計画を考える	講義
5	6．看護の実際・評価	1）看護実践の後のリフレクションから評価・修正 2）SOAP の記載方法について	講義・演習

6	7. 紙上事例から情報の整理を行い、アセスメントを考える。	1）閉塞性肺疾患又は脳梗塞の紙上事例から情報の振り分け、アセスメント関連図の書き方を学ぶ	講義・演習
7	8. クリティカルパスの概念	1）クリティカルパスの考え方、活用方法について理解する	
8	9. 筆記試験	単位認定試験	試験 50 分

評価方法	授業の出席時間および授業態度　授業中に提示した課題 筆記試験
評価区分	100%